

『災害』と『感染』。2つのリスクから命を守るためにできること

災害が差し迫った時、あなたはいつ、どこに避難しますか？

新型コロナウイルスの感染リスクのある今だからこそ、「自らの命は自らが守る」＝「自助」の意識を持ち、今のうちに避難の方法や備えについて確認しておきましょう！

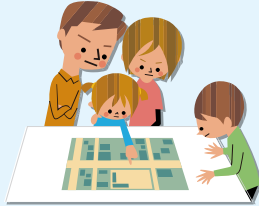


あなたがとるべき避難行動は？ 避難行動判定フロー

まず、ハザードマップで自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

国土交通省のHP「ハザードマップポータルサイト」または市町村から配布されたハザードマップで確認しましょう。



ハザードマップポータルサイト 検索



家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

原則として**在宅避難**をしましょう。

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので**原則として自宅以外に避難**が必要です

例外

浸水の危険があっても、次の3つの確認ができれば**在宅避難**も可能です。

- ① 洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
- ② 浸水する深さよりも高いところにいる
- ③ 浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある

土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は**自宅に留まり安全確保**することも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

警戒レベル3が出たら**避難**

市町村が指定している指定緊急避難場所、親戚や知人宅など、より安全な場所に避難しましょう

警戒レベル4が出たら**避難**

市町村が指定している指定緊急避難場所、親戚や知人宅など、より安全な場所に避難しましょう

警戒レベル 3

高齢者や乳幼児など避難に時間を要する人は

避難



警戒レベル 4

全員避難



！ 警戒レベルを理解して風水害に備えましょう！

適切な避難行動のポイント

POINT 01 避難とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難所に行く必要はありません。



POINT 02 避難先は小中学校などの避難所だけではありません。安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

さまざまな選択肢の中から最適な行動を選択することが大切です。いのちを守るための避難。自分にとってどこが安全な場所か、あらかじめ考えておきましょう。



在宅避難

自宅建物に危険がなく、生活できる状況であれば、在宅避難をしましょう。



事前に住宅の耐震化を行い食料や水など必要な物を日頃から備えておきましょう

親戚・知人宅へ避難

日頃からよく相談して、緊急時に身を寄せられる親戚・知人宅等、安全な避難先を確保しておきましょう。



事前に避難先の安全を確認し避難生活に必要なものは自分で持参しましょう

車中避難

安全な場所に止められるなら一時的に過ごすことも考えてみてください。



車中泊避難の特徴を理解し換気や適度な運動など適切な対応をとりましょう

不安があれば、ためらわず避難所へ！

避難所までの経路を確認しておきましょう。避難所には多くの方が集まる可能性がありますので、避難所では感染症防止対策にご協力ください。



雨が降りはじめたら警戒レベルを確認！

台風などの風水害や土砂災害など、ある程度の予測が可能な災害については早めの避難行動が大切です。たとえ空振りに終わったとしても「何もなくてよかった」と考え、命を守るためには早めの避難を心がけてください。



警戒レベル	行動を促す情報	住民がとるべき行動
警戒レベル 5	緊急事態宣言が発令された場合、避難所への避難を促す情報が出される。	
警戒レベル 4	避難所への避難を促す情報が出される。	
警戒レベル 3	指定緊急避難場所への避難を促す情報が出される。	
警戒レベル 2	指定緊急避難場所への避難を促す情報が出される。	
警戒レベル 1	指定緊急避難場所への避難を促す情報が出される。	

市町村長は、警戒レベル相当情報（河川や雨の情勢）のほか、地域の土地利用や災害実績なども踏まえ総合的に警戒レベル（避難情報）の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。